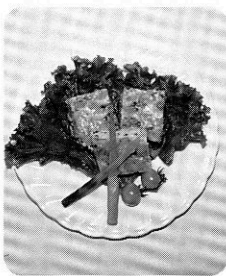




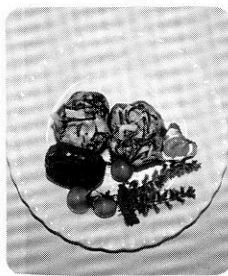
あの人
⑧

山林苗木品評会で林野庁長官賞に輝いた 高見 幸雄さん（雨乞51歳）

昨年、山口県林業用苗木品評会山行苗木の部で県知事賞を受賞された高見さんが、10月17日、東京で開催された第35回全苗連大会において、平成2年度全国山林苗木品評会林野庁長官賞を受賞されました。全国で18人、山口県では高見さんただ1人の受賞でした。高見さんは、5年間会社勤めをされた後25歳から現在まで苗木づくり一筋に取り組んでこられており、この間のひたむきな努力が今回の栄誉に結びついたわけですが、これからの抱負を尋ねてみました。「苗木業も色々な問題を抱えています、幸い雨乞山林樹苗生産組合のメンバーは若い人が多いので、品質と量は確保して、良い苗をつくり続けて行きたいですね。」と高見さん。苗木づくりは本当に大変なようですが、これからがんばって下さい。



▲「たちとうふ風」



▲「いか、ひじきの
ピーナッツ和え」

仙崎地区漁協婦人部連絡協議会主催の「食料理コンクール」が10月9日（水）、長門市の湊漁村センターで開催され、審査の結果、黄波戸漁協婦人部の杉信子さんの「たちとうふ風」が優秀賞に（全部で5点）選ばれました。杉さんの作品は11月7日に下関市で開かれる県大会に出品されます。なお、下村久代さんの「いか、ひじきのピーナッツ和え」がアイデア賞に選ばれました。

たくさん釣れたかな

神田小学校児童全員による「魚釣り大会」が、10月19日（土）黄波戸魚市場付近の岸壁で開催されました。

高学年の児童は、さすが黄波戸の子供とも思わせるほど、みごとな竿さばきで次々と魚を釣りあげていましたが、低学年の児童は、なかなか思うようにはいかないので、お父さんや母さんに手伝ってもらいながら魚釣りに挑戦していました。



昔ながらの稲刈りを体験

10月7日（月）、日置小学校では6年生の児童による学習田の稲刈りが行われました。

鎌で稲を刈る者と稲を束ねる者に分かれて作業は進められましたが、先生方の指導を受けながら約1時間ほどで全ての稲を刈り終え、最後に全員で竿がけをして作業を終えました。現在では農作業もほとんど機械化され、手で刈るということは少なくなりましたが、子どもたちにとってこの体験学習、良い経験となったことでしょう。

